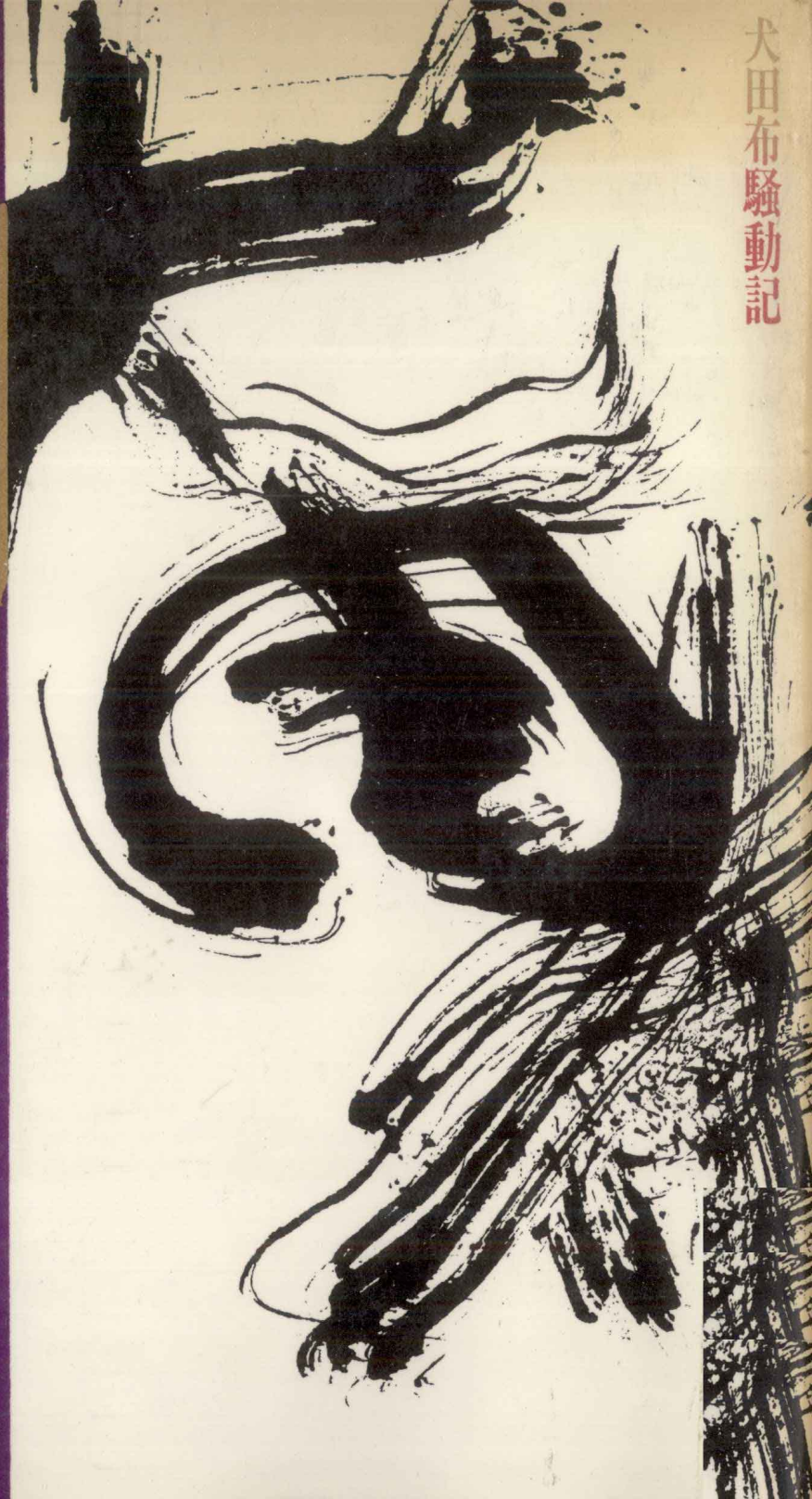


大田布騒動記



南島叢書 29

伊集田實
海風社

南島叢書 29

犬田布騷動記



伊集田實

海風社

一九八七年九月十八日 二版一刷発行
一九八七年八月十八日 初版発行

定価二五〇〇円

犬田布騒動記

南島叢書 ②9

著者 伊集田 實

図書 海風社

〒545 大阪市阿倍野区昭和町四―一―八
電話 ○六一六二八一―一八八四
振替 大阪四―九八二七七

発行者 作井 満

写植 (有)コロナ工芸 印刷 椎の実工房 製本・平井製本

1987 © Minoru Ijuda 0074-701129-1146

カバー題字／松井禾風
本文写真／幸山忠蔵
(P.219のぞく)
挿画／数 勝義
装幀／高橋啓二

南島叢書
②9

犬田布騒動記

伊集田實



ぎょうあん
せんこう
暁闇の閃光

『犬田布騷動記』再刊を祝して

中村 安太郎

私は拙著『祖国への道』の中で「地方文化の花ざかり」の一章、「犬田布騷動記」と伊集田實の一節で、次のように書いた。

『熱風座』を主宰した伊集田實は回想記「はるかなり海鳴り」で、自伝風な記録があるので詳しく書かないが、「熱風座」で上演した「ヤチャ坊」「コレヒドール墜道」「犬田布騷動記」などの作演出で有名である。

特に「犬田布騷動記」は薩摩藩の圧政を象徴する、黒砂糖政策と島津の圧政に反抗する農民の反乱を取り扱ったもので、革新の風を呼び起こす気魄にみちた作品で、当時の人々に熱狂的な共感をよんだものである。

熱風座のもっていた熱気は、昭和の初めに果した「築地小劇場」や「左翼劇場」のような空気を若い青年たちに感じさせた。

これが一貫した思想的基礎に支えられなかったことと経済的基礎を築けなかったことで短期に終わったことが惜しまれる。

村田実夫と同じく「二・二宣言」による分離のために、その有能な才能を存分に発揮できなかった伊集田實も惜しまれる一人である。

そのまま伸びたら日本でも優秀な演劇作家あるいは演出家として成長したであろう。

世界の歴史を繙けば、どの国の、どの時代にも、進歩と革新の転換期がある。その転換期を通過して、人類と民族は生長発展して行くのである。そしてまた、その転換期を迎える時には、また必ず、先駆者が生まれるし、彼らは歴史の息子として、生まれ出ざる悩みに、七転八倒の苦しみを受けなければならないのである。そうした歴史の前例は数え切れないほど多い。それは必ず尊い犠牲を伴うのが通例である。

近代日本を切り拓いた明治維新を迎えた時、日本民族は全国的な規模と永い時間を費して人民闘争の歴史をきざんだ。

奄美大島の当時の人民闘争を顧みれば、数知れない黒糖残酷物語がきざみこまれているが、その中から顕著な事件で一般的に知られているのは「犬田布騒動」と「喜界島兇徒聚衆事件」と「黒糖勝手売陳情事件」である。

「喜界島凶徒聚衆事件」と「黒糖勝手売陳情事件」は明治維新後の事件であり、いわば、白昼

公然の大衆の中で、衆人環視の中で大衆が公然と参加した人民闘争であり、裁判などを通じての権力との法律上の闘いにもなったが、「犬田布騒動」は、明治維新（明治二年―一八六八年）の五年前、即ち（文久三年―一八六三年）の出来ごとである。

明治維新前の薩藩の圧政下、つまり暗闇政治の中で、人民の無権利状態の中でおきた事件である。

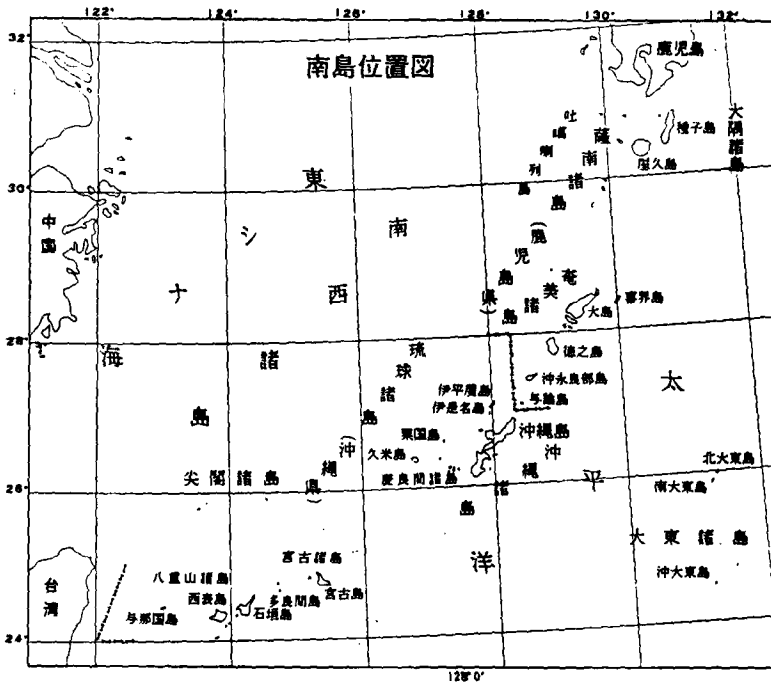
日本本土でも、江戸、大阪、水戸などで、放火、掠奪、殺傷、脅迫が続発しており、外国軍艦による下関砲撃、薩英戦争で知られるイギリス軍艦の鹿児島攻撃、平野国臣の逮捕投獄、武市半平太の投獄事件等々、つまり内憂外患続出の年、明治維新の黎明を迎える前の真夜中、さようあん 暗闇の只中のできごとであった。

勿論、奄美大島は、全国の騒動も波及しない遠隔の地であるが、それにも拘らず、島津の圧政の中で、三百年近い虐政の中でめざめた人民の闘いの炎が、遙かなる夜明けの空に向かって漆黒の暗闇の中から打ちあげた開放と自由への光として「犬田布騒動」のもつ意義は、すばらしいものである。

犬田布騒動は、奄美群島の徳之島の一角、犬田布岬の暁闇の天空に、明治維新に向って消えた人民闘争の光り輝く、暁闇の閃光であった。奄美大島の暁闇の天空に輝いた閃光「犬田布騒動記」が半世紀を経て、作者の手で蘇ったことに、心の底から祝福のことばを贈りたい。

（一九八七年初頭 京都の寓居にて）

注・元奄美タイムス主筆・元県議 奄美文化協会代表 はか



目

次

序文 晩闇の閃光

犬田布騒動記再刊を祝して 中村安太郎

一章 戯曲『犬田布騒動記』

プロローグとエピローグのある四幕五場……………12

二章 やぶにらみ南島史観

薩摩・道之島・琉球……………77

(A) パンフレット『犬田布騒動記』……………78

1、見開きのページのナレーション……………78

2、皇居前の大劇場から……………82

3、濃尾三川改修工事の費用(一)
南島への影響・推移する数字の証言……………87

4、濃尾三川改修工事の費用(二)
超過した数字が南島に遺したもの……………91

5、南の島に骨を埋めた映画監督……………94

(B) 隔てられた海——奄美と沖縄

1、遠くから来てもつともちかくにしまを視た

島尾敏雄さんと小川学夫さん……………99

2、琉球史劇に挑む

芥川賞作家のリリーフもおおいで……………102

3、琉球こそは史劇の宝庫……………107

4、奄美・琉球両史からの視座が欲しい……………110

5、格差レースの島となったオキナワ本島……………113

6、すべて芸能の人・東洋の郷愁を秘めて……………117

7、海も芸能は隔てられない……………120

(C)薩摩……………道之島……………琉球

19世紀―21世紀にむけて……………126

1、絶倫・絶対のワンマン島津薩摩守重豪……………126

2、〃黒糖地獄〃からの執達史・調所広郷……………129

3、近代を輸入するコンツェルンの総師・島津斎彬……………134

4、日清両属王国の破綻と「牧志・恩河事件」……………138

5、トカラ列島を吹きぬける冷たい北風……………142

6、劇^{ドラマ}『琉球国安泰なり』最終景―抜粋……………146

7、ハザマの鹿兒島県人

〔鹿兒島実業と沖縄水産が甲子園で対決すれば―〕……………151

三章 奄美の文芸復興期

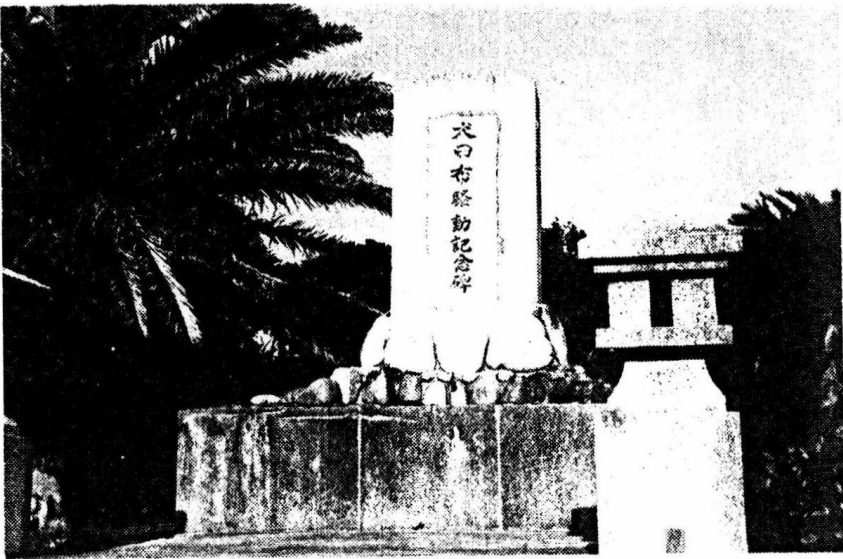
はるかなる海鳴り抄

- | | |
|---|-----|
| 南海日日新聞（一九八〇—一九八一・一連載より） | 157 |
| 1、荒廃の奄美―そして復興期 | 159 |
| 2、海軍いやで寄席劇場めぐり | 162 |
| 3、泉芳朗・その人柄と文学に憧憬 | 166 |
| 4、関東平野のただ中で犬田布の騒動を知る | 171 |
| 5、戯曲『犬田布騒動記』発表のてんまつ
（サンデー奄美（一九八五・六・二号より転載） | 174 |
| 6、モンテンルパの“島育ち” | 178 |
| 7、名瀬・文化協会―創作劇『引揚船』 | 181 |
| 8、名瀬・村田実夫との別れ“熱風座の誕生” | 185 |
| 9、名瀬・芸は身を助ける二人旅―沖縄 | 189 |
| 10、名瀬・異民族の支配下、でも書きまくる | 193 |
| 11、名瀬・『騒動記』初日“熱風座”の俳優たち | 198 |
| 12、名瀬・手記“熱風座”元「同人代表」池島典央 | 203 |
| 13、名瀬から―復活の本土へ―（密航） | 206 |
| 14、鎌倉・昇曙夢―日本の奄美人 | 211 |
| 15、戯曲『犬田布騒動記』記録のない記録 | 214 |
| あとがき | 220 |

第I章 戯曲

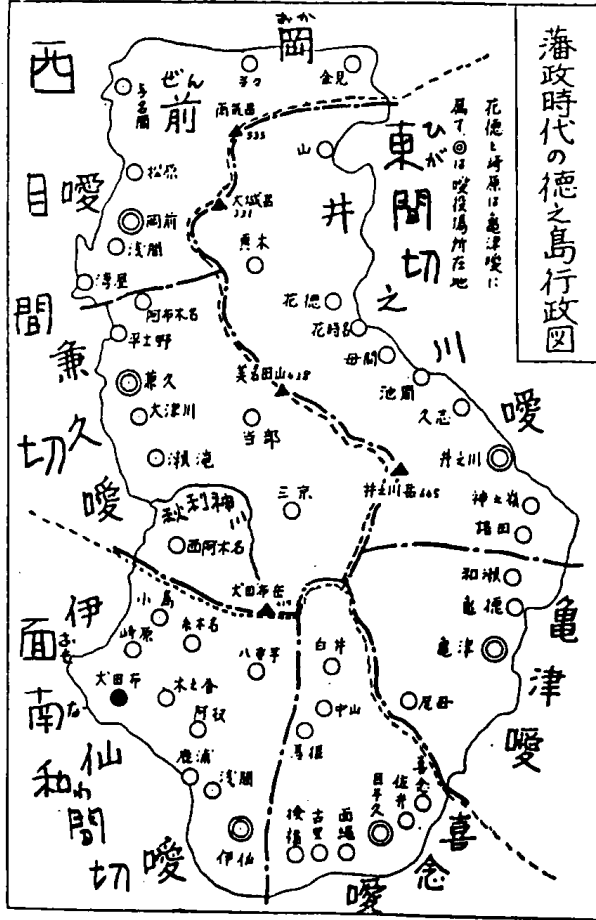
犬田布騒動記

プロローグとエピソードのある四幕五場



徳之島・犬田布にある記念碑

藩政時代の徳之島行政図



噺（アツカイと読み藩政時代の行政区域のこと）

一九四七年六月。奄美大島名瀬市で劇団「熱風座」の初演の台本形式を基調にして一九八六年春、改訂加筆をした。

一九八六年秋 著者

時 文久二年（一八六二）夏から翌年の春にかけて

所 奄美群島 徳之島犬田布周辺

人 ナレーターの喜美武 (63) 劇中では (51)

農夫 茂良（いげど） (62) 農夫 為盛（なもり） (38)

〃 義佐美（ぎさみ） (53) 〃 義仙（ぎせん） (50)

〃 安寿盛（やすもり） (35) 〃 政栄（まさえい） (30)

〃 義武（よしたけ） (23) 〃 実静（みねせい） (21)

為盛の妻もうし (32) 赤子の母 (30)

島役人 きび（よこめ） 横目 寿福（じゅふく） (36)

妹 まづる (21) 配下 仁智（にち） (32)

徳之島代官附役 寺師次郎右衛門

〃 その下役 吉国源兵衛

他に農民の男、女 島役人ら、多勢

（劇中、音楽、とあるは、山畑馨氏作曲・九州交響楽団演奏『ベルスーズ奄美』を、今回改訂にあたり、つよく惹かれ、その旋律をイメージにおいて指定した）

プロローグ

場内Ⅱ溶暗Ⅱの中に、幕は揚っている。

甲高い金属のような音。

ハミング “徳之島二上り” (民謡)

歌詞Aへかしゆて働^{はたら}ちん 誰^たが為^{ため}となりゆる

内地^{やまと}ちよん 鬻^{まげ}衆^{しゅう}の 為^{ため}となりゆり

歌詞Bへ屋敷^{やしき}守^もる神^{かみ}や みな護^{まも}てたばれ

物知^{ものし}らぬ吾^{われ}きや 手^てすり拌^{うが}ま

以下プロローグの全景に、この曲がハミングの合唱。ときには歌詞がはっきりと高く、または低く。
喜美武のナレーションの伴奏のように、ながれる。

風、波の音が交差する。

(スポットライト一条、中央に)

苔^{こけ}むした、幕とも、土饅頭^{まんじゅう}とも分らぬ積石が、一枚、一枚除^{のぞ}かれる。その中からあえぎ、もがきなが